

ここを観てみよう！

■草原に咲く花

クガイソウ（位置B）

自然共生園に1株のみ自生していたもので、タネを探って増やそうとしています。「がい」とは笠を数える単位だそうです。輪生する葉を見立てた「がい」は9段？



ホタルブクロ（位置Cなど）

草地や林縁等に生えるキキョウ科の多年草。ホタルが飛び頃に咲き、ホタルを筒状の花に入れて遊んだとか。共生園にはホタルブクロとヤマホタルブクロがあり、顎片の一部が反り返る方がホタルブクロです。



クララ（位置B・Cなど）

草原に生えるマメ科の多年草です。有毒植物で、誤って食べた牛馬がクラクラしたり、根がクラクラするほど苦いことが、名の由来だと。ハナバチが密を求めて訪れます。



ここを観てみよう！

■白い木の花

ウツギ（位置G）

「卯の花」とも呼ばれる低木です。枝が中空であることから空木(うつぎ)の名があります。田畠の境界木に用いられ、園内のウツギもかつての田んぼの境界木です。



エゴノキ（位置F）

雑木林に多い小高木です。垂れ下がる花にはハナバチが集まります。実の皮には有毒のサボニンを含み、石鹼に用いられました。



マタタビ（位置D）

林縁等に生える蔓です。梅の花に似た白い花を下向きにつけ、芳香があります。訪花昆虫を誘うためか、花に時期だけ葉の表面が白くなり、蔓全体が目立つようになります。雌株は秋に橙色の実をつけます。



ここを観てみよう！

■一日だけの花

アヤメ（位置C）

5月下旬から6月上旬に咲きます。花びらの模様は黄色と白色の網目模様です。乾いた草地などに生えます。よく似たカキツバタの模様は白線で、水辺に生えます。



ノハナショウブ（位置A・B）

6月中旬から7月初旬に咲きます。花びらの模様は黄色の線です。湿地や湿った草地に生えます。花菖蒲の原種です。里地の湿地の減少で、少なくなっています。



ニッコウキスゲ（位置B・E）

尾瀬など、山地の高原や湿原で群生するイメージがある花ですが、東北地方では里地里山にも生えます。しばしばカラスアゲハが訪花します。6月上旬まで楽しめます。



ノハナショウブ(花菖蒲の原種)

ここを観てみよう！

■ノアザミに来る昆虫

ノアザミの花にはたくさんの蝶やハナアブ、ハナムグリ等が集まります。

上向きに咲くノアザミの花は飛ぶのが下手でも止まりやすく、甲虫なども飛来します。ヒョウ柄模様の蝶はヒョウモンチョウの仲間です。6月に多く見られますが、夏にはいったん姿が消え、ノハラアザミが咲く頃の秋に再び現れます。食草はスミレです。



■アヤメやノハナショウブに来る昆虫

複雑な形の花の蜜は花の付根にあります。蜜を得るには暖簾のような花柱を押しのけて潜らなければなりません。これができるのは、マルハナバチで、花に潜ると背中に花粉が付く仕掛けです。マルハナバチの働き蜂は、同じ種類の花を回る傾向があり、花には好都合です。マルハナバチだけを呼ぶような形状に変化した花が、有利に進化してきたのでしょうか。でも、近年、そのマルハナバチがいなくなってきてるので、ピンチなのです！



ここを観てみよう！

けたたましい鳴き声を楽しもう

オオヨシキリ（ヨシ原・J）

東南アジアから渡ってきた夏鳥です。ヨシ原などで営巣し、ヨシを切って虫を探ることが名の由来です。オスは一夫多妻で縄張りを守るのが大変なのか、「行行子、行行子（ギヨギヨシ）」と盛んに叫んでいます。



キジ（草むらに多い）

草地が多い園内に多く生息しており、足元から鋭い鳴き声とともに突然飛び出し、びっくりされられることもあります。国鳥です。



サギの仲間（水辺・水没林・H）

釜房ダムの水没林では、白いコサギやチュウサギ、グレーのアオサギ等が営巣し、園内でも水辺での採食や飛翔する姿を観察できます。首を曲げて飛びるのが、サギ類の特徴です。

